

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

あなたの身のまわりには、漢字が好きだという人がいるだろうし、そしてまた、漢字なんか大嫌いだという人もきつといるにちがいない。

漢字が好きだろうが嫌いだろうが、それは①まったく個人の自由である。しかし漢字以外の文字もそれと同じように、好き嫌いの対象となるだろうか。アメリカ人の中にも、アルファベットが大好きだとか、AやBという字を見るのがいやでたまらないという人がいるだろうか。また漢字には好き嫌いをいう日本人も、ひらがなやカタカナには好き嫌いはいわないようだ。

そう考えれば、文字のなかで漢字だけが好き嫌いの対象になることがわかる。そしてこのように好き嫌いの対象となるのは、実はそれが②非常に便利な道具であることの裏返しである、と私は考える。

漢字を一通り使いこなせるようになるまでには、それなりの努力が必要である。今はごくふつうに漢字を使っている人でも、小学校のころには書き取りテストに苦勞させられたはずである。しかしある程度の漢字をいったんマスターしてしまえば、こんな便利な文字はない、と感じるのもまた事実である。

習得するまでは苦勞するが、マスターしたあとは二度と手放せないほど便利なもの、という、漢字がもつこの条件は、自動車とコンピュータという道具にもあてはまる。そしてこの二つにも、漢字と同じように、人によって好き嫌いがある。

自動車は現代文明が産んだ③リキの一つである。しかし車をちゃんと運転できるようにするには、かなりの④クレンが必要だ。自動車教習所のS字カーブで脱輪したり、縦列駐車に苦勞した覚えは、だれにだってあるだろう。

運転技術習得に挫折して、車嫌いになった知人がいる。彼にいわせれば、排気ガスをまきちらす車は⑤コウガイを引き起こす元凶であり、さらに一歩まちがえれば生命を奪う凶器にもなりかねない。文明のリキなど、とんでもないと彼はいう。

コンピュータは車よりずっと「人に優しい」道具で、そのおかげで各種の業務処理が⑥カクダンにスピードアップした。列車や飛行機の座席はスマホを使えばどこでも予約できるようになったし、バーコードのおかげでレジの計算がずいぶん早くなった。

銀行でお金を引き出すのに、かつては⑦ツウチヨウと印鑑いんかんが必要だったことをいまの子どもたちはすでに知らない。

しかしコンピュータになじめない、あるいはそれとできるだけ無縁むえんでいたいと考える人も、私の周辺には何人もいる。人間が機械を使うのではなく、機械が人間を使うのがどうにも許せない、と彼らは理屈りくつをのべるのだが、どうやらパソコンを使いこなせないという事実がその「理論」の背景にあるようだ。

テレビなら電源とアンテナをつなげばすぐに番組を見られるが、パソコンはそうはいかず、それで文章を書いたり、ホームページを見ようと思えば、カタカナ書きの難解な単語が頻出ひんしゅつするマニュアルと格闘かくとうしなければならぬ。

車とコンピュータは、上手に使いこなせばまことに便利な道具である。しかしそれを習得するまでには一定の努力が必要であり、さらにある程度使えるようになってからも、道はそれほど平坦へいたんではない。⑧ここにそれらのモノに対する好き嫌いが発生する場がある。使える人はますます好きになるし、うまく使えない人は嫌いになってゆくというわけだ。

漢字に好き嫌いがあるのも、それとまったく同じといえるだろう。

かつて漢字廃止論者はいしがさかんに唱えたように、なるほど漢字は難しい。⑨「鬱うつ」とか「鑿のみ」などを見るだけでぞつとする人もいるにちがいない。それぞれの形が複雑であるだけでなく、さらに漢字は種類が多く、せいぜい五十種類前後で用が足りる仮名やローマ字とちがって、漢字は小学校で習うだけでも一千種類をこえる。もちろんそれだけでは足りず、日常生活で漢字を使うには少なくてもだいたいその倍は必要である。

⑩だが、そんなやっかいな漢字など使わず、仮名かローマ字だけで日本語を書けばよい、という具合にはなかなかならなかった。漢字を使わずに日本語を書く試みは、多くの人によって、これまでは何度もおこなわれてきたが、ついに成功しなかった。それは、漢字を使わない日本語の文章がはなはだ読みにくく、時には誤読を起すことすらあったからにはかならない。「きょうはいしやにいく」は、「きょう歯医者いしやにいく」なのか、それとも「きょうは医者いしやにいく」なのかわからない。この混乱は文中に漢字を混ぜることで、たちどころに解消されるのである。

漢字の好きな人は、⑪文字としての漢字が持つ意味明示の効率のよさを高く評価する。そして今では電子技術の発達によつ

て、二十画以上もある複雑で難しい漢字すら、いとまたやすく画面に表示でき、さらに簡単な操作でたちどころに、きれいに印刷できるようになった。これによって学習の負担は大きく軽減された。それは漢字をめぐる環境にとって、まちがいなしに⑫大きな進歩なのである。

一所懸命けんめいに勉強して漢字を覚えた世代からは、機械で書いた文字には心がこもっていないとかの苦言がしばしば呈ていせられてきた。コンピュータで漢字を書くなど、文字文化の墮落だらくであって、断じて許せない！ という意見を聞いたこともある。

しかしコンピュータと漢字の問題は日本語表記についての新しい文房具ぶんぼうぐの登場ととらえるべきであって、かつて毛筆からペン書きに移行したころにも、きつと毛筆派からペン書きに対する苦言が呈せられたにちがいない。

戦後の長い時期を通じて、文系の学者や作家、評論家たちが⑬漢字を廃止すべきかどうかをめぐって議論していたあいだに、最先端さいせんたんの電子技術に従事する理系エンジニアたちががんばって、機械で漢字を書けるようにしてくれた。今の「漢字ブーム」の仕かけ人は、そのルーツをたどっていけば、実は理系技術者の中にひそんでいた漢字大好き人間たちだったのかもしれない。

『漢字のいい話』阿辻哲次あつじてつじ

問一 —— 部①「まったく」と同じ働きをしているものを、次のア～ウの……部のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア このことはまったく関係がない。

イ まったく、こんなことになるとは。

ウ まったく君の言う通りだね。

問二 —— 部②「非常に便利な道具」とありますが、これと同じ内容の表現を文中から二十四字でぬき出しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問三 —— 部③・④・⑤・⑥・⑦のカタカナを漢字に直しなさい。

問四 — 部⑧ 「ここにそれらのモノに対する好き嫌いが発生する場がある」とありますが、「ここ」とはどういうことを指しますか。解答らんに合わせてように五十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問五 — 部⑨ 『鬱』^{うっ}とか『鬱』^{のみ}などを見るだけでぞっとする人がいるにちがいない」とありますが、次のア、イ、ウ、エのうち、最も画数の多い漢字を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 警 イ 臓 ウ 護 エ 簡 オ 臨

問六 — 部⑩ 「だが、そんなやっかいな漢字など使わず、仮名かローマ字だけで日本語を書けばよい、という具合にはなかなかならなかった」とありますが、なぜですか。四十二字でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問七 — 部⑪ に当てはまる言葉を、漢字二字で答えなさい。

問八 — 部⑫ 「大きな進歩」について、筆者はどのようなことを「大きな進歩」と考えていますか。六十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問九 — 部⑬ 「漢字を廃止すべきかどうか」とありますが、本文を読んであなたはどのように考えますか。その理由もふくめ、百二十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

昼休みになった。教室の隅すみに置いてある木箱からボールを取り出して、クラスメートたちがわいわいと廊下ろうかに出ていく。みんながいなくなると、蓮人れんとは松葉杖まつばづえをついて、私の机とまりの隣となりへと移動してくる。

相変わらず、彼は授業や給食の間中、ブスツとした顔をして、周りと関わろうとしない。そのくせ、私の自由ノートを覗きのぞ込みこうとするときだけ、悪戯いたずらっぽくキラキラと目を輝かがやかせるのだ。

「こっちに來るの、やめてよ」

「なんで？」

「見られてたら描かけないって言ったでしょ」

「でも、どうやってあの紅葉裕太もみじゆうたを生み出すのか、途中とちゆうの様子を見たいもん」

「別に今日も紅葉裕太を描くとはい限らないし」

「まじ？ ってことは、桜部長も描けるの？ 銀杏先輩いちょうせんぱいは？ 俺おれ、野球やってたときシヨートだったから、そのへんのキャラも描いてほしいなあ」

追い払はらおうと思つたのに、逆に興味を持たれてしまったようだった。はあああ、と私は特大のため息をつき、机こに①頬杖ほおづえをつく。

『白球王子』のイラストを目撃めくげきされてしまった先週の火曜日から、蓮人は毎日昼休みに話しかけてくるようになった。

最新刊は、②かりる気はないと何度も断つたのに、結局無理やり一緒いっしょに読よまされた。一冊まんがの漫画を二人で覗き込むなんて、初めての経験ゆかいだった。「読みにくすぎ！ こっちにはこっちのペースがあるのに」と愚痴ぐちると、「でも、面白おもしろかったでしょ？」と蓮人は愉快ゆかいそうに笑つた。

私はストーリーの内容に興味があるわけじゃない。

絵とキャラクターが好きだけ。

そう主張すると、蓮人は驚いていた。あなたと趣味が同じわけじゃない、ということを書いたかったのに、「へえ、そういうパターンもあるのか。ちなみに一番好きなキャラは？」と食いつかれ、③私はすっかり閉口してしまった。

昼休み、④私と二人でいるときはあんなに明るいのに、みんなが帰ってくると、途端に蓮人は喋らなくなる。背が高いはずなのに、机の脇に寝かせた松葉杖よりも小さく、⑤チヂこまって見える。

それは何故なのだろう、とたびたび授業中に考えた。

たぶん、私のことを下に見ているからじゃないか。関節の難病で外遊びができなくなつてから、楽しそうにドッジボールやキックベースをしている子たちには引け目を感じている。だけど、いつも孤独に絵を描いている私よりは、自分のほうがまだ健全だと思っている。そういうことなんじゃないか。

「で、今日も描いてくれないわけ？」

「しつこいなあ。絵は一人でいるときに描くものなの」

「うわあ、傷つく」

「傷ついたなら、自分の席に戻れば？」

「ひどいこと言うなって」

「ねえ、どうして私に構うの？ 遊ぶ相手がなくて暇だから？」

私が冷たく尋ねると、蓮人は「えっ？」と⑥を丸くした。

「遊ぶ相手がいなくて、って……俺は、一緒に遊んでるつもりだったんだけど」

「は？」

「⑦本当は、もっと早く仲良くなるろうと思ってたんだよ。でも、ほとんど一対一で話したことなかったから、なかなかきつかけがつかめなくてさ。そんなときに『白球王子』っていう共通の話題が見つかって、『これだ！』って思ったわけ」

「なんで？ そこまでして話しかけなかったっていいのに」

こっちはいい迷惑めいわくだよ、と⑧アクタイをつこうとした瞬間しゅんかん、

⑨

を疑うような言葉が聞こえてきた。

「だって俺たち、仲間だろ」

「……仲間？」

「クラスで二人だけ、外遊びができない。自分は悪くないのに、昼休みを楽しめない」

「何言ってるの？ 私は外遊びが嫌いきらいなだけ。いくら先生に注意されても、自分の意思きよひで拒否きよひしてるの。蓮人とは全然ちが違うよ」

「いや、一緒だよ」

蓮人はいつになく真面目な顔をして言った。

「こんな身体からだになって、昼休みを教室で過こすうちに、不思議に思えてきたんだ。そもそもなんで、クラスみんなで遊ぶときの選択肢せんたくしが、外遊びしかないんだろうって。……健康のため？ でも、体育の授業だってあるわけだし、別に毎日じゃなくたっていいよね。

……全員で仲良くなるため？ それなら、ハンカチ落としやフルーツバスケットだっていいはずだよ」

「あれも身体を使う遊びだから、蓮人はできないでしょ」

「まあ、そうだけじゃ。だったら、全員で絵を描いて見せ合ったり、読んだ本の感想を言い合ったりするのだって、きっと楽しいと思う」

「うーん——⑩そんなことは、考えたこともなかった。

「何を言いたいかというとね、学校の先生たちが一方的に押しつけてくる『昼休みはみんなを外遊びをしましょう』っていうルールは、ちっとも『みんな』のことを考えていないんだ」

一、健康である。二、外遊びを嫌いではない。「この二つの条件を満たさないとクラスの輪から外れちゃうなんて、おかしいよ」と蓮人は言葉に力を込めた。

「私たちは、条件を満たさない者同士だから、仲間ってこと？」

「そう」

病気のせいで運動ができない。

身体は健康だけれど、運動が死ぬほど嫌い。

やっぱり、この二つが同じとは思えない。だけど、蓮人は本気で言っているみたいだった。

「俺、病気になるまでは、野球も他の運動も大好きで、完璧すぎるくらい条件を満たしたからさ。外遊びが本当に苦手な子の気持ちなんて、想像したこともなかったんだ。でも、⑩これってさ、めっちゃくちゃつらいルールだったんじゃない？」

蓮人は怒った目をしていた。右の拳で、目の前の机をドカンと叩く。

「絵が好きだっていいじゃん。漫画が好きだっていいじゃん。晴れの日は外、雨の日は中でもいいけど、じゃあせめて曇りの日くらいはバランスよく遊んだっていいじゃん。人間はみんな平等だって学校で習うのに、一部の人の個性を無視しないでほしいよ」

「個性……」

種。将来花を咲かすかもしれない、その元となるもの。

⑪「こんなことを言ってくれる人は、初めてだった。先生の⑫ハウシンやクラスのルールに疑問を持ってまで、私という存在を認めてくれる人は。」

「私……ずっと、自分が悪いんだと思ってた。どうして私は一人で遊べるものばかりが好きなんだろう、どうして学校の雰囲気^{ふんいき}に溶け込めないんだろう、って」

「だよな。俺だってそうでもん。自分が一生できなくなった外遊びを見学するのなんて、吐くほど嫌だよ。泣きたくなるよ。だから、松葉杖をつけてたつて外には出られるのに、だんだん行かなくなった。そんな弱虫な自分を、ずっと責めてた」

「これって……個性、なの？」

「そうだよ。俺たちは、外遊びが大嫌いだ。これからも絶対に無理だし、⑬セイリ的に受けつけない。周りからはみっともないと思われるかもしれないけど、これはれっきとした俺たちの個性なんだ」

口から唾^{つば}を飛ばしながら言い切った蓮人は、一つ深呼吸をして、爽やかに微笑^{ほほえ}んだ。

「だからさ、昼休みが終わったら、一緒に提案してみようよ」
「え、提案？」

「卒業まであとたった一週間しかないけど、『昼休みはみんなで外遊びをしましょう』ってルールを変えてほしいって。俺たちが楽しめる遊びをする日も作ってほしいって。二人できちんと言えば、先生もみんなも、分かってくれるはずだよ」

私は真正面から、蓮人の真剣な目をじっと見つめた。

なんだか、すごいことが起こるんじゃないか。

そんな予感がした。

⑮心の奥底おくそこに固く繋ぎ止めていた気球が、解き放たれ、青い空へと上がっていく。

気がついたときには、私は力強く頷うなずき返していた。

『あの日の交換日記』 辻堂ゆめ

問一 —— 部①「頬杖をつく」が表す「私」の気持ちとして、最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。
い。

ア 不快 イ 安心 ウ 退屈たいくつ エ 不審ふしん オ 絶望

問二 —— 部②・⑤・⑧・⑬・⑭のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 —— 部③「私はすっかり閉口してしまった」とありますが、このときの「私」の気持ちを五十字以内で書きなさい。

(句読点・記号は字数に入れません。)

問四 — 部④「私と二人でいるときはあんなに明るいのに」とありますが、蓮人の明るさについて「私」がどのように考えているかを説明した次の文の□部A・Bに当てはまる言葉をそれぞれ指定した字数で文中からぬき出しなさい。

(句読点・記号は字数に入れません。)

A (五字) □のせいでみんなと一緒に外遊びができなくなった蓮人は、身体は健康なのに外遊びが死ぬほど嫌いでいつも

孤独な私を見下して□部B(三字)なく話せるのだと考えている。

問五 □部⑥・⑨に入る語を漢字一字で答えなさい。

問六 — 部⑦「本当は、もっと早く仲良くなるうと思ってたんだよ」とありますが、蓮人がこのように思う理由を文中の言葉を使って三十五字以内で書きなさい。(句読点・記号は字数に入れません。)

問七 — 部⑩「そんなこと」の内容として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア クラスの中で蓮人と私だけが先生の言うことを信じていないのではないかとということ。

イ 全員で体を動かす外遊びは、体育の授業でしているから必要ないのではないかとということ。

ウ 室内で体を動かす遊びこそ、クラスみんなが楽しめる遊びなのではないかということ。

エ 全員で外遊びをするのに疑問を持っている人が、他にもいるのではないかということ。

オ クラスみんなで遊ぶときに、教室で遊ぶ選択肢があってもいいのではないかということ。

問八 — 部⑪「これ」の指示内容を文中から二十字以内でぬき出しなさい。(句読点・記号は字数に入れません。)

問九 — 部⑫ 「こんなことを言ってくれる人は、初めてだった」とありますが、それがどういうことを説明した次の文の

部に当てはまる言葉を、二十字以内で書きなさい。(句読点・記号は字数に入れません。)

これまで私の周りにいた人と違って、蓮人が初めて 人であること。

問十 — 部⑮ 「心の奥底に固く繋ぎ止めていた気球が、解き放たれ、青い空へと上がっていく」とありますが、「私」にどのよう

な心境の変化があったのかを書きなさい。